



人気チェリストの長谷川陽子さんが5月、新アルバム「シューマン&ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」(ビクター)を発表しました。さわやかで、温かい音色で知られる彼女。奏法を変え、難曲に挑み、新境地を切り開いたわけを聞きました。

西條正人記者



撮影・武藤章

新アルバム「シューマン&ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」を発表

チェリスト 長谷川 陽子さん

今作では、奏法を一新しました。
一昨年、1700年製の愛器「ゴフリラー」を全面修理。ところが、修復後の愛器は、従来の弾き方で

♪

はコントロールできなくなりました。
「悩みました。音楽家にとって、弾き方を変えるのは、歩き方を変えるようなもの。毎日苦勞しました」

が、そのかいあって、

新奏法をわがものにする
と、音の広がりを実感でき
るようになりました。
「その点も、(前のアル
バムと)聴き比べてほし
いと思っています」
理想の音楽家を尋ねる
と、意外にも、ボサノバ

のジョアン・ジルベルト
さんの名をあげました。
「5千人のお客様を前
にして、とつとつと自然
に歌う…。70、80歳にな
って、あんな無欲な演奏
会ができたらいいなと思
います」

カザルス、「ウィチャ」、
「チェロは少
精神的にも無
自然体だから
私? 長生き
あはは(笑い)



撮影・石塚康之

はせがわ・ようこ=1989年、「珠玉のチェロ名曲集」で

言葉に表すのは難しい
音楽なら表現できます

ラハの美しい街並みに溶け込んで、土地の空気も映し出したような気がします」
17年前、同曲をイギリスの楽団とCD化した長

谷川さん。今回は、2度目の挑戦です。
「当時は、まだ大学生でした。いろんな経験を積んで、曲の理解も深まったと思います。例えば、第3楽章。最初は派手でしたが、アメリカにいたドヴォルザークが好きだった女性の危篤を知り、彼女への思いをこめて書き直したそうです」
長谷川さんにとっても初めて聴いたチェロ協奏曲という「初恋の相手」。

哀愁を帯びた優美な旋律が胸に迫ってきます。
9歳から、日本のチェロ界の重鎮、井上頼豊さん(1912~96年)に教わりました。
「私にとって、井上先生は優しいおじいちゃんのような存在でした。技術だけでなく努力する面白さ、音楽家として基盤となるものを教えてくれたさった方です」

桐朋学園大学入学後、フィンランドのシベリウス・アカデミーに留学。尊敬するA・ノラス氏に師事しました。
映画「かもめ食堂」(荻上直子監督、2006年)のヒットなどで、日本でもフィンランド文化がブームに。「フィンランド人と日本人の気質は、思索的などころが似ているような気がします。私も『かもめ食堂』はお気に入りです」

音楽は奏でる、表す、と語ります。幼いころは内気口でしか気持ちにせまらなかった。「おとなにな情のすべてを言葉換えることは難い、音楽でなら現でできると思いチェロの音は声に近いといわれただけに、心やすい楽器なの



撮影・武藤章

ラハの美しい街並みに溶け込んで、土地の空気も映し出したような気がします」

17年前、同曲をイギリスの楽団とCD化した長

谷川さん。今回は、2度目の挑戦です。

「当時はまだ大学生でした。いろんな経験を積んで、曲の理解も深まったと思います。例えば、第3楽章。最初は派手でしたが、アメリカにいたドヴォルザークが好きだった女性の危篤を知り、彼女への思いをこめて書き直したそうです」

長谷川さんにとっても初めて聴いたチェロ協奏曲という「初恋の相手」。

哀愁を帯びた優美な旋律が胸に迫ってきます。

9歳から、日本のチェロ界の重鎮、井上頼豊さん(1912〜96年)に教わりました。

「私にとって、井上先生は、優しいおじいちゃんのような存在でした。技術だけでなく努力する面白さ、音楽家としての基盤となるものを教えてくださった方です」

桐朋学園大学入学後、フィンランドのシベリウス・アカデミーに留学。尊敬するA・ノラス氏に師事しました。

映画「かもめ食堂」(荻上直子監督、2006年)のヒットなどで、日本でもフィンランド文化がブームに。「フィンランド人と日本人の気質は、思索的なところが似ているような気がします。私も、『かもめ食堂』はお気に入りです」

音楽は奏でる人の心を表す、と語ります。自身、幼いころは内気で「チェロでしか気持ちを言い表せませんでした」と。

「おとなになっても、感情のすべてを言葉に置き換えることは難しい。でも、音楽でならそれを表現できると思います」

チェロの音は、人間の声に近いといわれます。それだけに、心情を伝えやすい楽器なのかもしれ

言葉に表すのは難しい 音楽なら表現できます

新アルバム「シューマン&ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」を発表

チェリスト 長谷川 陽子さん



撮影・石塚康之

はせがわ・ようこ=1989年、「珠玉のチェロ名曲集」でCDデビュー。92年、シベリウス・アカデミー卒。5月21日、新アルバム「シューマン&ドヴォルザーク：チェロ協奏曲」(マルチェロ・ロタ指揮、チェコ・ナショナル交響楽団)をリリース。http://yoko-hasegawa.com/

はコントロールできなくなっていました。

「悩みました。音楽家にとって、弾き方を変えるのは、歩き方を変えるようなもの。毎日苦労しました」

が、そのかいあって、

新奏法をわがものにする

のジョアン・ジルベルト

カザルス、ロストロポフ

と、音の広がりを実感できるようになりました。

「5千人のお客様の前にして、とつとつと自然に歌う。70、80歳にな

「チェロは技術的にも精神的にも無理がなく、自然体だからでしょう。私? 長生きしますよ、あはは(笑い)」

と、意外にも、ボサノバ

会ができたらいいなと思

います」